

大修館書店『新編 書道Ⅰ』 準拠 年間学習指導計画例・単元の設定例

| 月          | 学 習 事 項                                      | 教科書<br>ページ         | 配当<br>時間               | ●単元の目標（例） ○学習活動（例）   | 備考  |  |
|------------|--|--------------------|------------------------|--|---|--|
| 4          | 書の美を求めて<br>書の芸術性                             | 前見返し<br>口絵<br>2～3  | 2                      | ○書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握する。   | ・「書道Ⅰ」の導入期の指導として位置づけたり、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」に設定されている各単元と関連づけて一体的に扱ったりすることが考えられる。  |  |
|            | ■書の学び方<br>■臨書と倣書<br>■鑑賞の方法                   | 4～5<br>6<br>7      |                        | ○表現（臨書と創作）と鑑賞の相互関連など、書の学び方について理解する。<br>○臨書の種類とその意義を確認し、倣書について理解し、創作活動への展開の可能性について考える。<br>○書の鑑賞の方法について理解する。 |   |  |
|            | 一 漢字の書の学習                                    |                    |                        |  |   |  |
|            | ■書体の変遷<br>■拓本と碑について                          | 10～11<br>12～13     | 2                      | ○漢字の五書体の歴史的な変遷について理解する。<br><br>○拓本の採り方やその様式について理解する。   | ・「漢字の書」に位置づけられている各単元と関連づけて一体的に扱うことが考えられる。「書体の変遷」については、鑑賞の「知識」として適切に位置づける必要がある。  |  |
| 5          | 楷書の学習  | さまざまな楷書            | 14～17                  | 2  | ●（1）知識及び技能<br>・用具・用材の特徴と表現効果の関わり、楷書の書風と用筆・運筆との関わりを理解する。（表現「知識」）<br>・楷書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化について理解する。（鑑賞「知識」）<br>・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。（表現「技能」）   | ・「楷書の学習」の導入期の指導として、最初に扱ったり、各単元と関連づけて一体的に指導したりすることが考えられる。   |
|            |  | 唐の四大家              | 18～19                  |  |   |  |
|            |  | 九成宮醴泉銘/孔子廟堂碑       | 20～25<br>別冊2～5         | 4  | ●（2）思考力、判断力、表現力等<br>・楷書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。（表現）<br>・楷書の古典や臨書した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。（鑑賞）   | ・漢字の書における「楷書の学習」をまとめて、目標を示しているが、実際は「楷書の学習①九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の比較を通して」、「楷書の学習②雁塔聖教序と顔氏家廟碑の比較を通して」、「楷書③北魏の書の学習」（各4時間）というように、生徒の実態等に応じた単元を設定して学習計画を作成することが考えられる。「知識及び技能」の「技能」の目標について、「楷書の古典」と示している部分は、各古典の臨書活動において育成される資質・能力であり、単元の設定方法に応じて、「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」「牛橛造像記」「鄭義下碑」等の具体的な古典名とすることが考えられる。「知識」については、二つの古典を比較して理解するなど一体的に扱うことも可能である。 |
|            |  | 雁塔聖教序/顔氏家廟碑        | 26～31<br>別冊6～9         | 4  | ●（3）学びに向かう力、人間性等<br>・楷書の古典の特質に基づく幅広い表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（表現）<br>・楷書の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（鑑賞）   |  |
|            |  | 北魏の書<br>牛橛造像記/鄭義下碑 | 32～35<br>別冊10          | 3  |   |  |
| 6          | 二 行書の学習                                      | 行書の特徴<br>行書の変遷     | 36<br>37               | 1  | ●（1）知識及び技能<br>・用具・用材の特徴と表現効果の関わり、漢字の行書の古典の書風と用筆・運筆との関わりを理解する。（表現「知識」）<br>・行書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国や日本等の文字と書の伝統と文化について理解する。（鑑賞「知識」）<br>・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。（表現「技能」）   | ・「行書の学習」の導入期の指導として最初に扱ったり、各単元と関連づけて一体的に指導したりすることが考えられる。  |
|            |  | 王羲之と顔真卿の行書<br>蘭亭序  | 38～44<br>別冊11          |  |   |  |
|            |  | 祭姪稿                | 45～51<br>別冊12          | 3  | ●（2）思考力、判断力、表現力等<br>・行書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。（表現）<br>・行書の古典や臨書した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。（鑑賞）   | ・各古典の学習を一つの単元として設定する場合は、特に「技能」においては、「行書の古典」と示している部分は、「蘭亭序」「祭姪稿」「風信帖」等の具体的な古典名とすることとなる。   |
|            |  | 王羲之を学んだ名家<br>日本の行書 | 52～53<br>54～55<br>別冊13 | 2  | ●（3）学びに向かう力、人間性等<br>・行書の古典の特質に基づく幅広い表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（表現）<br>・行書の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（鑑賞）   |  |
|            |  | 風信帖<br>三筆、三跡の書     | 56～57                  |  |   |  |
|            |  | ・身のまわりの書1          | 58                     | 適宜   | ○生活や社会における書を再認識し、その意義や効用を考え、そのよさや美しさを味わってとらえる。  | ・「漢字の書」に位置づけられている各単元と関連づけて一体的に扱うことが考えられる。  |
|            |  | 7                  | 三 篆書の学習                | 篆書（小篆）の特徴  | 59  | 1  |
| 泰山刻石       | 59   |                    |                        |  |   |  |
| 四 篆刻・刻字の学習 | 篆刻の学習  |                    | 60                     | 3  | ○篆刻の用具・用材、基本的な表現の過程について理解する。<br>○篆刻の古典の書風と用刀・運刀との関わり、中国の書の伝統と文化について理解する。<br>○篆刻の基本的な用刀や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。<br>○篆刻の書風に即した用刀・運刀、字形、全体の構成について構想し工夫する。<br>○篆刻作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。  | ・篆刻、刻字等については、生徒の興味や関心をふまえ、可能な限り扱うようにする。篆刻については、「篆書」の学習とあわせて一つの単元を設定する方法なども考えられる。   |
|            | いろいろな姓名印<br>篆刻の用具・用材<br>文字の配列<br>印稿例<br>刻る手順 |                    | 60<br>61<br>62～63      |  |   |  |
|            | 刻字の学習<br>書と刻字<br>刻字の用具・用材と手順                 |                    | 64                     |  |   |  |
| 8          | 五 隷書の学習                                      | ・身のまわりの書2          | 65                     | 適宜   | ○生活や社会における書を再認識し、その意義や効用を考え、そのよさや美しさを味わってとらえる。  | ・「漢字の書」に位置づけられている各単元と関連づけて一体的に扱うことが考えられる。  |
|            |  | 隷書の特徴              | 66                     | 適宜   | ○隷書の古典の書風と用筆・運筆との関わり、中国の書の伝統と文化について理解する。<br>○隷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆や線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。<br>○隷書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。<br>○隷書の古典や臨書した作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。  | ・隷書、草書については、生徒の特性等を考慮し扱うようにする。<br>・「書体の変遷」と関連づけ、文字が刻されてきたことや木や竹等に書かれることで発展してきたことなど、中国の書の伝統と文化について理解する指導も考えられる。   |
|            |  | 曹全碑                | 66～67                  |  |   |  |
|            |  | 草書の特徴              | 68                     |  |   |  |
| 書譜         | 68～69  |                    |                        |  |   |  |
| 9          | 漢字の書の制作                                      | 漢字の書の制作            | 70～71                  | 6<br><br>適宜  | ●（1）知識及び技能<br>・用具・用材の特徴と表現効果の関わりについて知解する。（表現「知識」）<br>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。（鑑賞「知識」）<br>・古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。（表現「技能」）<br>●（2）思考力、判断力、表現力等<br>・意図に基づいた表現について構想し工夫する。（表現）<br>・創造された作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。（鑑賞） | ・漢字の書の各古典の臨書の学習で身につけた資質・能力を基礎として、生徒が意図に基づいて主体的に構想し、表現を工夫しながら作品を完成させることで自己実現をし、達成感が味わえるように指導計画を設定したい。<br>・漢字の書、仮名の書の授業の中で適宜取り上げ、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解を図る指導を設定したい。  |
|            |  | 制作の手順              | 72～75                  |  |   |  |
|            |  | 書の鑑賞形式             | 76～77                  |  |   |  |

|                |    |  |  |    |   |   |
|----------------|----|--|--|----|---|---|
| 10             |    | 漢字の書の鑑賞  | 78～79  | 2  | ・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。<br>(鑑賞)  |   |
|                |    | ・落款の書き方  | 80   | 適宜 | ○落款とその書き方について理解する。  | ・各単元において落款を書く際に参照するなどの活用が考えられる。   |
| 二 仮名の書の学習      |    |  |  |    |   |   |
|                |    | 仮名の成立と種類<br>姿勢・執筆<br>用具・用材とその扱い方<br>基本的な筆使い  | 82～83<br>84<br>84<br>85  | 2  | ●(1)知識及び技能<br>・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。(表現「知識」)<br>・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。(表現「知識」)<br>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。(鑑賞「知識」)<br>・日本の文字と書の伝統と文化について理解する。(鑑賞「知識」)<br>・仮名の成立等について理解する。(鑑賞「知識」)<br>・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。(鑑賞「知識」)<br>・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身につける。(技能)<br>・連綿と単体、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。(技能)  | ・仮名の書の導入期の指導（6時間）を一つの単元として設定することが考えられる。   |
|                |    | 平仮名<br><br>変体仮名<br><br>連綿  | 86～87<br><br>88～89<br><br>90～91  |    |   |   |
| 11             |    | 蓬萊切<br><br>高野切第三種<br><br>散らし書きの美   | 92～93<br>別冊14～15<br>94～95<br>別冊16<br>96～99   | 6  | ●(2)思考力、判断力、表現力等<br>・古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。(表現)<br>・意図に基づいた表現について構想し工夫する。(表現)<br>・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞)<br>・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞)<br><br>●(3)学びに向かう力、人間性等<br>・主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現)<br>・主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)   | ・「仮名の古典の学習」（6時間）を、一つの単元として設定することもできる。その場合、「蓬萊切」から「散らし書きの美」までが単元で扱う内容となる。生徒の実態に応じて「仮名の古典の学習① 蓬萊切」というように、二つ以上の小単元を設定して指導計画を作成することも考えられる。<br>・各古典の学習を単元として一つずつ設定する場合は、目標で「古典」と示している部分は、「蓬萊切」等具体的な古典名となる。   |
| 12             |    | 仮名の書の制作<br><br>全体構成の工夫<br><br>大字による表現の鑑賞   | 100～101<br><br>102<br><br>103  |    |   |   |
|                |    | 料紙の美<br><br>・料紙を作ってみよう   | 104～105<br><br>106   | 適宜 | ○美麗な加工を施した料紙の伝統的な美を味わい、仮名の書の美を幅広く感受する。<br>○簡単な料紙制作や、自作の料紙を用いた表現を通して、用具・用材と表現効果との関わりを実感的に理解する。<br><br>・仮名の書の制作と関連づけて、一体的に扱うことが考えられる。<br>・年賀状などに活用して、生活における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わえるような授業を設定したい。   |   |
| 三 漢字仮名交じりの書の学習 |    |  |  |    |   |   |
| 1              |    | 言葉を表現する<br><br>漢字仮名交じりの文の成立とその書の変遷<br><br>漢字仮名交じりの書の鑑賞<br><br>感動や思いを表現しよう<br>言葉を考える<br>作品の表現意図を考える<br>名筆に学ぶ表現の工夫<br>全体構成の工夫<br>用具・用材の工夫<br>鑑賞会を行おう | 108～109<br><br>110<br><br>111～113<br><br>114～115<br>116<br>117<br>118～119<br>120～121<br>122<br>123 | 10 | ●(1)知識及び技能<br>・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。(表現「知識」)<br>・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解する。(鑑賞「知識」)<br>・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。(表現「技能」)<br>●(2)思考力、判断力、表現力等<br>・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。(表現)<br>・創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わってとらえる。(鑑賞)<br>●(3)学びに向かう力、人間性等<br>・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現)<br>・書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞) | ・「漢字仮名交じりの書」は「漢字の書」「仮名の書」のように内容のまとまりの中に複数の単元設定が難しいと考えられる。ここでは、言葉の選定から作品の完成までの一連の「創作活動」を一つの単元として設定している。<br>・中国から伝来した漢字を受容し、仮名を生成し、やがて「漢字仮名交じり文」を成立させた歴史と漢字仮名交じりの書の変遷について理解ができる授業を設定したい。<br>・生徒一人一人が生み出した作品にはかけがえない価値があり、自己や他者が生み出した著作物等に価値があることを理解し、それらを尊重し合う態度を養いたい。必要に応じて書に関する知的財産権にふれたい（他の単元も同様）。 |
|                |    | ・書を生活の中で生かしてみよう  | 124  |    |   |   |
| 3              | 資料 | 姿勢・執筆  | 125  | 適宜 | ○姿勢・執筆、さまざまな用具・用材と表現との関わりについて理解する。  | ・書道Ⅰの導入期や表現領域の各分野の学習と関連づけて学習を設定する。  |
|                |    | 用具・用材  | 126～127  |    |   |   |
|                |    | 書式の教室  | 128～131  | 適宜 |   | ・中学校国語科書写との関連を十分に考慮するとともに、高等学校国語科との関連を図るなど、実社会・実生活との関わりをふまえて効果的に文字を書く活動を設定したい。生徒の実態に応じて硬筆も取り上げるよう配慮したい。   |
|                |    | ・書道史略年表<br>・博物館や美術館に行ってみよう<br>・日本・中国書道史参考地図<br>・書道用語集  | 132～135<br>136～137<br><br>138～139  | 適宜 |   |   |

※ここに掲げているのは、一学期26時間(13週)、二学期30時間(15週)、三学期14時間(7週)とした年間70時間の目安です。  
※「漢字仮名交じりの書」の単元の設定と目標は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 芸術(書道)』(国立教育政策研究所教育課程研究センター)から引用しました。